

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890200056		
法人名	有限会社 どりいむ		
事業所名	グループホーム どりいむはうす		
所在地	福井県敦賀市長谷36-3-4		
自己評価作成日	平成 29 年 8 月 2 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	平成29年8月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、野坂岳の麓にあり、田園に囲まれ四季折々の風景を肌で感じられる静かな環境の中に立地している。利用者は自室に閉じこもることは無く、リビングで語り合ったりテレビを見たり、家庭的な雰囲気です。その日その時したい事が自由に出来るように配慮し、体調に応じてご本人の食べたい物をメニューに取り入れ、手作りの食事を提供している。出来る限り、服薬での対処に頼らず、温かく見守り寄り添うことで、認知症症状の対応に努めている。また、地域ふれあいサロンへの参加や、ホームの行事として七夕会、クリスマス会等にはボランティア、ご家族の参加を頂き、共に楽しい時間を共有することで地域、家族間の交流に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、敦賀市の野坂岳のふもとにあり、周囲には田園が広がり静かで落ち着いた場所に立地している。「毎日充実した生活を過ごせるように、生活の質を高める努力をする」という理念を掲げ、職員は利用者に寄り添いながら支援を行っている。ケアマネジメントはセンター方式を取り入れて、利用者の思いを聞き出し個別計画に反映させ、職員間で話し合いながら支援を行っている。また、食堂や廊下、居室には、利用者が作った作品が飾られ、季節が感じられる作品が多く展示されている。食堂は中庭に接しており、光が多く入り、利用者が日向ぼっこするようなほのぼのする光景も見受けられる。利用者と職員が食堂などで楽しく会話し、居室に閉じこもることなく、楽しい時間を共有している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が住んでいた地区の馴染みの美容室に行ってもらったり、地区のサロンの利用を再開し、地域密着に基づき、生き甲斐のある楽しい毎日を過ごしてもらえるよう努力している。	職員間の話し合いにより、事業所独自の理念をつくり、玄関・ホールに掲示している。また、利用者、家族にも契約時に説明している。職員も理念に基づいた支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の保育園児との交流や、年2回の行事には、地域で活動している人達を招いたり、地域サロンの再開等により、地域との交流を図っている。	地域の文化祭に作品を出品したり、サロンに参加したりするなど、積極的に地域と関わっている。また、地域の保育園児との交流のほか、家族や地域住民が事業所の行事に参加し、日常的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所に二人の福祉委員がおり、地区のサロン等をとおして 少しでも貢献したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での行事や取組み、利用状況などを報告し それについての意見や地域の取り組み、家族としての意見等を伺い、今後のサービス向上に活かせるよう努めている。	運営推進会議は2か月に1回開催している。家族代表、区長、民生委員、市職員が参加し、事業所の行事、取り組みなどを報告し意見を聞いている。また、年に2回家族会でも取り組み等を報告している。	運営推進会議で決まったことを文書化し、全利用者の家族等に報告することで、今後のサービス向上に活かしていくことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	業務上不明な点などは市役所へ行った際に聞いたり、電話で実情を伝えている。認定調査に来られた時にもコミュニケーションを取り、関係を築けるように努めている。	市職員と連絡を密にし、事業所での困りごとの相談や事業所の実情を話し、関係機関との連携を図りながら業務に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のため施錠をするが、その他は施錠を含めて身体拘束となることはしていない。	身体拘束のマニュアルを整備し、職員同士で内部研修等を行い、常に話し合いをしている。夜間玄関は施錠しているが、日中は施錠せず、センサーが鳴るようにして、職員が声掛けをしながら利用者を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待についての話し合いをして、自分達の行動を振り返り、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の権利擁護については家族が行っており相談を受けた時は話を伺いサポートしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みの際に簡単に説明し、契約時にも十分な説明をして理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、年2回の家族参加行事の後に家族との交流会を行ったり、面会時は近況の報告と共に意見、要望を伺うよう努めている。	意見箱を設置したり、家族の面会時に利用者の情報や要望を聞いたりしている。また、年2回の行事の後に家族との交流を図り、要望意見などを取り入れている。また、苦情相談窓口を設置し、契約時に家族に説明している。	今後、事業所のホームページを作成することで、地域住民へ事業所の情報を提供する機会を増やすことを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日中検討で話し合い、職員からの意見や提案が反映されるように努めている。	毎月ミーティングを行い、職員の意見や要望を聞いている。管理者は、職員との関わりを密にし、常に話し合いの場を設け、意見や提案を反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭環境を考慮し、無理のない勤務体制にすることにより、業務の能率アップを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はそれぞれの立場で自立できるよう努めて出席してもらい、内部研修では質を上げるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設時、同業者と相互訪問の活動をした。その後も交流を図り事業の向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人の自宅や入所(入院)先に行き、顔合わせやコミュニケーションを取り、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接や入所の際に要望等を聴き、良い関係ができるよう努めている。センター方式のB1.2.3を記入してもらい、思いの理解に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の段階で本人と家族が何に困っているかや要望を聴き、統一した支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しやシーツ交換、お茶碗拭きなど、利用者それぞれの能力に合わせて、出来ることをしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院は家族付き添いで行っており、面会時や電話等で近況報告し、共に本人を支える関係を築いている。家族に衣替えや必要物品等、居室の管理を促し、普段の利用者の様子を把握してもらえよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の希望や協力もあり、入所前より通っていた場所へ行ったり、家族昨夏行事への呼びかけや外出時の同行を呼びかけている。	家族の協力を得ながら、利用者の馴染みの美容室へ行ったり、自宅に外泊なども行っている。手紙や電話のやり取りをしている利用者もあり、地域との関係が途切れないような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知レベルや気の合う者等を配慮して、食堂の席や外出時のメンバーを調整している。また、利用者同士が居室を行き来しておしゃべりを楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了した利用者に対して、利用中の写真や思い出をアルバムにして渡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症により本人の意向は聞き取りにくいので、家族からの話や本人との普段の会話、何気ない一言や行動等からくみ取るよう努めている。	日頃の話し方や表情で、利用者の意向をくみ取っている。内服薬で顔がこわばり表情が読み取れない利用者には、職員が寄り添い対応し一人ひとりの希望、意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規利用者に関してはセンター方式B表を家族に記入してもらい把握に努めている。長期利用者に関してはB表を元に現状も加え、本人らしさの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知レベルに合わせた内容のレクや作業ができるよう、日々の状態観察をして現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からは普段の会話やこちらからの働きかけに対する反応等により、家族からは家族からは面会時や通院時等より、他職員からは申し送りやミーティング等より、意見やアイデアを聴きプランの参考にしている。	介護支援専門員と職員が利用者の思いを反映し、介護計画を作成している。また、モニタリングやケア会議を通して、利用者がより良い暮らしが出来るような介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケアプラン記録や日誌、日常生活チェック表等で情報を共有し、必要に応じて話し合いをして実施やプランの参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の気づきから出る課題やその時々利用からの要望、訴えに対して、その場で話し合い、対応に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2月に1回利用者の地区の美容室に行ったり、秋には保育園児が遊びにきてくれる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の了解のもと、どりにむはうすのかかりつけ医に変更してもらい受診している。今までの病院に受診される利用者もいる。	現在往診は行っておらず、利用者が希望するかかりつけ医を選択し受診している。受診は緊急時を除き、家族が同行している。事業所が受診同行した際には、医師に書面で生活状況を報告し、診察結果は家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師に来てもらい、何か起きた時は電話で報告し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院が決まると病院の医療連携スタッフと情報交換や相談を行っている。入院時には事業所での情報提供書を渡している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期ケアについての説明をしている。利用者が入院したり状態悪化があったときに再度家族との話し合いの場を設け終末期ケアについて今後の意思確認をしている。	重度化、終末期の支援の方法を職員間で話し合い、マニュアル化している。入所前・中も家族と相談しながら、利用者に一番いい方法を話し合い、その人に合った場所を提供している。医師と連携を取りながら看取りも1度行ったことがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当マニュアルを基に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練と、消防、避難の手順を見える所に貼り、意識して業務にあたるようにしている。	年に2回避難訓練を行っている。地域の特別養護老人ホームと提携しており、実際に土砂災害の危険があった際に夜中に避難した事もある。避難マニュアルや連絡網も作成しており、備蓄品も備えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その人に合わせた馴染みのある言葉がけをしている。	職員間でプライバシーや尊厳に関するミーティングを行い、利用者には「さん」付けで呼んだり、トイレの声掛けにも気を配っている。また、新人職員研修を行い、プライバシーや尊厳を損なわない言葉かけや対応を日々心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活でできることとしたいこと又はしたくないこと等、本人の希望や思いを聴き、自己決定できるよう働きかけている。個人的に買い物や散歩等外出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に日課や決まり事はなく、その日その時何をしたいか、本人のペースに合わせながら、利用者の希望や要望を聴き支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症のレベルに合わせて、着替えの服を自分で準備してもらったり一緒に準備したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	タイヘイの食事を提供しているが毎週木曜日は利用者と一緒に献立を考え調理している。	外部から食材を配達してもらい、ごはんのみそ汁は事業所で作り食事を提供している。また、利用者と献立を考え調理し提供する日もある。さらに、利用者に合わせて刻み食などにも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	形状や量は個人に合わせた物を提供し、食事、水分摂取量の記録を行い確保のチェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる利用者にも一度は声掛けをして歯磨きの確認をしている。自分で困難な利用者にはなるべく自分でしてもらうよう声掛け誘導をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分のタイミングでトイレに行かれる利用者がほとんどだが、夜間になると失禁があり、声掛けをしている。頻回にトイレに行かれる利用者も多く、排泄パターンの把握や転倒の防止、トイレの清潔保持に努めている。	排泄チェックシートを使い、排泄パターンを把握し対応している。オムツ使用者には、日中はトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた取り組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的にヨーグルト、ヤクルト、バナナ等を摂取してもらったり、薄めのセンナ茶を飲んでもらい便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月、火、木、金の午前中を入浴の日として、希望やタイミングに合わせて入浴してもらっている。	週4回、午前中に入浴日を設けている。入浴は同性介助を行っており、入浴を拒否する利用者には無理強いせず、気分転換をしたり、時間を変更したりするなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の状況や、本人のペースに応じて休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬アセスメント表を作成し、医師の指示などを含め一人ひとりの状態把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知レベルに合わせて個人ができることをして役割分担にて料理やレクをしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の訴えや要望に応じて買い物や散歩等できる範囲で行っている。遠出の外出や花見等は家族への参加も呼び掛けて計画している。	スーパーにおやつを買いに行ったり、地域の文化祭やお茶会に参加したりしている。外出の際には家族の協力を得ながら、遠出の外出や花見などにも出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で管理できて希望のある利用者は所持している。自分で管理できないが希望のある利用者は、こちらで定期的に確認しながら所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には電話や手紙のやりとりができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に作った季節に合わせた飾りや、行事や外出、日頃の様子の写真等を飾り付けしている。空気清浄機もあり温度、湿度、光等の調整にも配慮している。	食堂は中庭に接しており、天気の良い日はひなたぼっこを楽しむこともある。共用の廊下や食堂には利用者の作品が展示してあり、季節を感じる飾りものが多く展示してある。温度、湿度、光等にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	読書好きの利用者が多いので、本や雑誌を揃えたり、利用者がお互いの居室を行き来してお話をしたり、各自の思いやペースに合わせた過ごし方ができるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みのある部屋作りの説明をして、使い慣れた物や好みの物を持ってきてもらっている。部屋にテレビのある利用者は自分の好きな番組をゆっくり見られている。	居室は、家族の写真や利用者の作品が掲示してある。居室の衛生面にも配慮しており、大きな窓があり、風通しもよく、匂いもない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の中央にある食堂はいつも皆が集まる場所であり、どこからでも行けるようになっている。食堂から見えるテラスには物干しや花があり、できる利用者には洗濯物を干したり花に水やりをしてもらっている。		